

**地域の経済動向(令和7年1-3月期)**  
**《道央(空知・石狩・後志・胆振・日高)地域》**

1 経済動向に係る企業等の声(1-3月期)

**【建設業】**

- ・ 建築資材の高騰により、売り上げは少し減少の見込み。(管工事業)
- ・ 工事費や人件費、資材の高騰により開発が進まない。(不動産業)
- ・ 地域の建設業の業況は事業者ごとにまちまちであるものの、新幹線工事や高速道路に係る工事受注があるため、概ね良好に推移している。今後10年程度は工事が続きそうなのでその期間は同様の推移が見込まれる。(建設業)
- ・ 民間工事に係る資材の運搬は別会社に委託しているが、運転手不足の影響を受けており、搬入に遅延が発生している。砂利と土砂の運搬は子会社が行っているため、現状遅延は発生していない。(建設業)
- ・ 資材、燃料、人件費の高騰(特に人件費で人手不足でかなり高騰している)が受注価格に反映しきれない。国の設計労務単価も上がってはいるが、現実の単価には全然追い付いていない。(建設業)
- ・ 売り上げは、増額分の労務単価を工事代金に乗せできているため、例年並みよりは少し良い。(電気工事業)

**【製造業】**

- ・ 工場増設後における製造部門の従業員数は約50名で現在に至るまでほぼ一定だが、自動化・DX化による生産性の向上に注力した結果、従業員あたりの生産性は1.43倍まで上昇し、売上額は6億円を突破した。(製造業)
- ・ 急速冷凍を行うため、消費電力が大きい。電気料金高騰が経営に与える影響は多大。また、冷蔵、冷凍設備が老朽化しており修繕費の負担が大きい。(水産加工業)
- ・ 会員数減少による組合の存続問題がある。(水産加工業)
- ・ 漁獲高の減少で地元の魚を十分確保できないため、製品を作れず売上が減少しており、収益の見通しは厳しい状況。昆布は不漁の影響で、高値で入札(仕入)となっているため、資金力の無い小規模企業は仕入ができない状況にある。(水産加工業)
- ・ これまでは貝の缶詰のみ町のふるさと納税返礼品に出品していたが、今年9月に新しく出品した冷蔵活貝が好評で全国から注文が入っている。他産地の同等品もある中、当社の商品を選んでくれている。昨年と比べると売上は1.5倍程度で推移。当面は在庫のある缶詰めを出荷する予定だが、在庫が厳しい状況。養殖に係る材料費、餌代、光熱費及び缶詰の外注加工賃の高騰により利益は減少してきているが、今のところ値上げは行っていない。(貝類養殖業)
- ・ 食品用アルコールを製造。卸売業者を通じ水産加工業者に販売しているが、近年の漁獲量の減少により取引量は縮小傾向。(製造業)
- ・ 原料の一部を海外から輸入しているが、円安の影響により仕入れコストが上昇している。(製造業)
- ・ 今年の売上は昨年並みで推移しているが、物価高のため利益は圧縮されている。多少の値上げは行っているが価格に転嫁し切れていない。今年は5%~10%の値上げを行いたい。チョコレートもカカオショックによるカカオ豆不足のため非常に値段が上がっているのと、鳥インフルの発生で卵の仕入れ値も高い。箱やフィルムの仕入れ値も15%程度上がっている。(菓子製造業)

**【卸売・小売業】**

- ・ 輸出の大半はメロン。生産量の少ない産地はロットの問題から輸出が困難で、品種の異なる夕張メロンも取り扱っていない。なお、コメも取り扱っているが、現地に精米施設を保有している企業とは価格面で勝負できない。(卸売業)
- ・ 主な輸出先は香港だが、一部台湾もある。香港向けは中国への経由輸出というよりも、香港の富裕層が購入しているようで、輸出量は漸減している。(卸売業)

- 物価の高騰に加えて町内の漁業収入の減少が小売業にも影響を与えており、食料品や生活必需品の購入を控える傾向が見られる。(小売業)
- 毎年多くの観光客が地域に訪れているが直接的に好影響がある事業者は限られる。地域の小規模事業者は売上が悪化しているといった声もあまりないが、「落ちてはいない」といった消極的な状況の印象。(商工団体)
- 売上は横ばいで推移している。クラウドファンディングによる商品企画や、特注品の製造を単発で受けることもあるため、売上は波がある状況。(卸売・小売業)
- 自社商品をつくっていききたいが、商品の製造の先に支出が発生するビジネス形態であり、資金力が乏しいのでその面は経営的に厳しい。(卸売・小売業)
- 仕入原価の大幅な上昇、人件費の上昇による、利益の減少。値上げしても追いつかず、顧客の買い控えもあり、厳しい状況にある。(商工団体)
- 自社の各事業所の社屋や倉庫などの老朽化に伴い、順次改修を実施しているが、建設業界の人手不足を背景に工事費が増大している。(卸売業)
- 売上データから日々の売れ行きを予想し、生菓子の製造数を決めているが、最近では過去の情報どおりにならないことが多く、売れ残りロスの発生や、逆に売上の機会を喪失することが多くなった。(菓子製造販売業)
- 現在、販売場所は自店舗のみで、卸販売は行っていないが、町の人口減少が課題なので、町内の同業者と協力し、物販イベントに出展するなど連携を図っていききたい。また高齢者になると、お店まで買いに来られなくなるので、商品の配達も考えたい。(菓子製造販売業)
- 花は食べ物と違って、無くてもよい商品なので、顧客単価が上がっていかない。「3,000 円の花束を」と言われたら、以前より花の本数を減らすか、単価の安い花にすることになる。花の仕入れに関しては、以前は宅配便を使っていたが、生花の仲卸が日高方面にトラックを走らせており、昨年からのこの会社からの仕入れに切り替え、コストが抑えられるようになった。対応も良く助かっている。(生花小売業)

## 【運輸業】

- 昨年度はコロナ前の 8 割程度の売上だったが、今年度はコロナ前（令和元年度）の水準まで売上も利益も戻っている。道内の貸切観光バス事業者は、コロナ禍で廃業・倒産で減少したが、コロナ明けで需要増になっており、残っているバス会社に需要が振り分けられているため、全道的に需要は旺盛な状況。(道路旅客運送業)
- 国内の旅行会社の需要だけでも十分であるが、海外エージェントからの需要については、適正金額の場合のみ対応している。中国本土や台湾は安く叩いてくるので価格が合わない。韓国、タイ、インドネシアは受注実績がある。インバウンド需要はコロナ前に戻っている。春節の需要も大きいですが、雪不足の影響でスキー客が減少しているため、空港とスキー場の送迎バス需要は減少している。(道路旅客運送業)
- 2024 年問題については、労務管理上受けられなくなった行程も出てきた。1 日の休息時間の基準（11 時間以上が基本で 9 時間を下回らない。）に関して、当社は空港送迎の仕事が多いので、飛行機の到着時間の遅れや、早朝便の対応もあり、ドライバーのやりくりが難しくなった。(道路旅客運送業)
- 令和 5 年 8 月に運賃基準が改定され、これまでの上限・下限の範囲内から、上限は廃止されたが、あまりに高くは出来ないのでは、以前の範囲に準じて仕事を受けることとし、令和 5 年 10 月に当社も価格改定を行った。また、今年の秋にも基準が上がる見込みなので、燃料高騰は厳しいが、高騰分程度は価格転嫁できている。(道路旅客運送業)

## 【サービス業】

- 冬季になり、来店客は 9 割方外国人となった。稼働は良好だが人手が足りず、さばききれない。(飲食業)
- 売上は昨年既にコロナ前に戻っていたが、今年は今年のさらに 2 割増で推移しており、利益についても同じ割合で増えている。理由としては、昼の客数が増えているのと、宴会もコロナ前に戻っている。忘年会に関しては 20～30 人の団体も入るようになった。報道にあるような「職場の大人数の宴会離れ」の影響は、田舎のためかほとんど無い。飲食メニューは昨年 1 月に値上げして以来、据え置きにしていたが、来年 1 月に再値上げを予定している。物価高の影響よりも人手確保の目的の方が大きい。(飲食業)
- 今年度の売上は昨年度同期比で 112%、利用者数は 105%で推移している。利用料金の値上げや商品開発 (オリジナルグッズ) 等の取り組みによる売店の売り上げ増が要因。宿泊やレストラン、乗馬体験、売店の売上及び利用者数が増加した一方で、宴会はコロナ前の半分ほどの売上及び利用者数となっている。(宿泊業)
- 昨年 10 月の最低賃金改定に合わせ、最低賃金以外の職員も賃上げを行ったが、賃上げに伴う経費の増加は、経営への影響が非常に大きい。12 月ボーナスは今年の 3 倍の金額を支給することができ、昨年支給できなかった 3 月のボーナスも支給予定。(宿泊業)
- 宿泊施設はビジネス客 (工事関係者) が宿泊客の大半を占めており、冬期の観光閑散期でも稼働率を維持しているが、地域内での消費活動の低迷が続く中で、サービス業全般が厳しい状況。(商工団体)
- 教育旅行生が宿泊できる大きな宿泊施設があまりないため、日帰りでの立ち寄りが多いが、最近では生徒数が少ない学校の教育旅行で民泊に泊まりたいという相談もある。(商工団体)
- 昨年と比較して売上や利用者数が増加したため、コロナ以前の状況に戻ったが、食材や燃料費等の高騰により利益は昨年から横ばいの状況。(宿泊業)
- 小幅な値上げと受注先を増やしてなんとか売上を確保しているが、人件費や仕入価格の上昇で利益が十分出ない。(商工団体)
- キャンプ場の入込は横ばい。ワカサギ釣りは料金の値上げによる売り上げ増だが、物販が伸び悩んだため、売り上げ全体としては昨年度より減少。(観光協会)
- 冬期間についてはアイヌ関連施設が閉まっているため、夏に比べ利用客が少ないが、2 月は町内において、観光イベントがあったことや、例年よりも雪が少ないためか、利用客は比較的確保できている。(宿泊業)
- 宿泊料は昨年から段階的に値上げを行っており、現在は、昨年比で 2 割ほど値上げになっている。原材料の高騰から、レストランにおいても、50 円から 100 円ほどの幅で段階的に値上げを行っている。(宿泊業)

## 2 道内金融機関から見た地域景況感(1-3月期)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
非常に好調	好調	やや好調	普通	やや低調	低調	非常に低調
						

### 【直近の景況感】

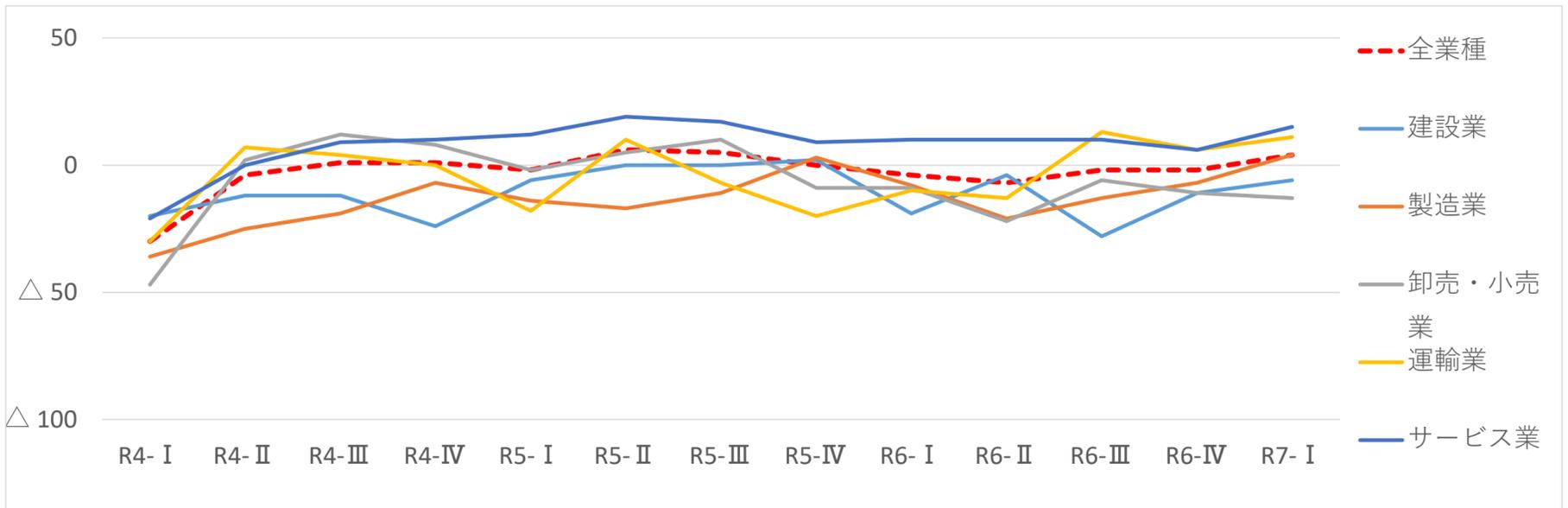
	現在の景況感			判断理由	次期見通し	
	総合	生産動向	消費動向		方向感	判断理由
北海道信用金庫				今期の景気動向調査では、卸売業・建設業で「やや好調」となったが、製造業・サービス業・不動産業で「普通」、小売業で「やや低調」となり、全体の業況判断DIが5.6となっていることから「普通」と判断した。		次期の業況見通しは、小売業・サービス業で「普通」、製造業で「やや好調」、卸売業・建設業・不動産業で「好調」となり、全体の業況判断DIが15.7の「やや好調」となっていることから、今期の景況感「普通」から「上昇傾向」と判断した。
空知信用金庫				今期の業況判断指数(DI)は△14.9と前期より16.0ポイント下降。業種別に見るとサービス業で横ばい、他の7業種はいずれも下降した。売上高DIは1.6と前期比5.4ポイント下降し、製造・サービス業で上昇、小売業で横ばい、他の5業種で下降した。収益DIは△5.9と前期比6.5ポイント下降し、製造・サービス・農業で上昇したが他の5業種はいずれも下降している。		来期の予想業況判断指数(DI)は△3.7で、今期より11.2ポイントの改善見込み。業種別では、農業以外は改善を見込んでいる。主要指標は、いずれも前年同期比で下降傾向にあり、原材料費や燃料価格の高騰、人手不足等による先行きへの不安感が数値に反映されたもの。
北空知信用金庫				当金庫の景気動向調査によると、生産動向は悪化しており、消費動向もサービス業(その他)や卸・小売業(衣料品販売)を除き、卸・小売業(食料品販売)、卸・小売業(その他販売)、サービス業(自動車修理販売関係)は悪化している。昨今の物価高騰による消費意欲の減少や、仕入価格の上昇等による売上高及び採算(利益)の悪化が見られることから、「低調」と判断した。		建設業(建設請負)、サービス業(その他)は悪化を見込んでいるものの、サービス業(自動車修理販売関連)は横ばい、その他業種では改善を見込んでいる。全体的なDIも10.3ポイント改善する見通しであることから「上昇傾向」と判断した。
北門信用金庫				景気動向調査による業況DIは前期と比較して△12.4ポイント低下し△25.0となり「やや低調」と判断した。生産動向について、製造業で業況DIが前期より回復したが「やや低調」、消費動向については、小売業およびサービス業で業況DIが低下したことから「やや低調」と判断した。		景気動向調査の結果、業況DIが横ばいとなる見通しであることから「変わらない」と判断した。
伊達信用金庫				サービス業は、春休みやインバウンドを含む観光客の影響もありコロナ前の水準まで回復推移、製造業は原材料や光熱費の高騰の影響が続いている。建設業は、公共工事の受注減少と人手不足の影響からやや低調傾向、不動産業は例年並みで推移している。各業種で多少の変化はあるものの、全体的には大きな変化なく「普通」と判断した。		原材料の高騰や人手不足等の影響は継続している状況であり、収益性の回復は変化ない見通しであることから、前期同様「変わらない」と判断した。

苫小牧信用金庫				<p>今期の景気動向調査によると、景況判断指数は良いとする企業13.9%に対して、悪いとする企業40.5%、DIは前期から12.2ポイント後退し△26.6。卸売業・運輸業・建設業で大きく後退し景況感の総合評価は前期の「普通」から「やや低調」と判断した。</p> <p>また、生産動向は製造業の業況がやや後退したものの、前年同期比では大きく改善しており前期同様「普通」と判断、消費動向はやや改善した業種があるものの、依然として悪いとする企業が多いことから前期同様「やや低調」と判断した。</p>		<p>同調査によると、次期については良いとする企業12.7%に対して、悪いとする企業31.4%、DIは△18.6。今期実績に比べ8.0ポイント改善の見通しとなったが、前年同期と同水準の見通しであり、前期同様「変わらない」と判断した。</p>
室蘭信用金庫				<p>全業種DIがマイナス4ポイントと前回調査から12ポイントの悪化、生産動向でも悪化しており、人手不足で受注停滞を招くなど、依然として厳しい状況のため「やや低調」と判断した。消費動向では外国人観光客などが徐々に増えつつあるが、秋鮭の漁獲量の減少なども影響して仕入価格を販売価格へ転嫁しきれず「普通」と判断した。</p>		<p>全業種DIでは3ポイントの良化を見込み、建設業・卸売業を除いて良化見込みであり、季節感もある中、原材料高騰や慢性的な人手不足など厳しい環境にあるも、消費動向では13ポイントの良化を見込むものであり、総合的な景況見通しは「変わらない」と判断した。</p>
日高信用金庫				<p>今期のDIは△33.9と、前期比21.6ポイント下降した。DI数値は全業種で下降し、「非常に低調」と判断した。燃料費、物価高騰等の影響で消費動向は「低調」であり、加工品の原材料不足、原料価格高騰もあり生産動向についても「低調」と判断する。</p> <p>業種別の業況DIは、製造業△46.1(前期△17.7)、建設業△12.9(同0.0)、卸売業△50.0(同△12.5)、小売業△46.1(同△15.1)、サービス業△34.5(同△17.2)となる。</p>		<p>次期の予想業況判断DIは△12.3と、今期実績比21.6ポイントの上昇見通しである。業種別に見ると全業種で上昇する見通しであり、総合的な景況感「上昇傾向」と判断する。</p>

【景況感の推移】

	R5- II	R5- III	R5- IV	R6- I	R6- II	R6- III	R6- IV	R7- I
北海道信用金庫								
空知信用金庫								
北空知信用金庫								
北門信用金庫								
伊達信用金庫								
苫小牧信用金庫								
室蘭信用金庫								
日高信用金庫								

### 3 業種別の業況感BSI(企業経営者意識調査)



	R4- I	R4- II	R4- III	R4- IV	R5- I	R5- II	R5- III	R5- IV	R6- I	R6- II	R6- III	R6- IV	R7- I
全業種	△ 30	△ 4	1	1	△ 2	6	5	0	△ 4	△ 7	△ 2	△ 2	4
建設業	△ 20	△ 12	△ 12	△ 24	△ 6	0	0	2	△ 19	△ 4	△ 28	△ 11	△ 6
製造業	△ 36	△ 25	△ 19	△ 7	△ 14	△ 17	△ 11	3	△ 8	△ 21	△ 13	△ 7	4
卸売・小売業	△ 47	2	12	8	△ 2	5	10	△ 9	△ 9	△ 22	△ 6	△ 11	△ 13
運輸業	△ 30	7	4	0	△ 18	10	△ 7	△ 20	△ 10	△ 13	13	6	11
サービス業	△ 21	0	9	10	12	19	17	9	10	10	10	6	15

### 4 各種経済指標

